

令和 2 年度第 1 回廃棄物対策審議会（6 月 26 日）におけるご意見とその対応等について

1 基本目標について

No.	ご意見の概要	対応等
1	基本目標④「家庭ごみに占める資源物の割合」を目標に掲げており、他の政令市にもあまり見られない目標設定であることから評価できるが、市民によってはかなりショッキングな数値であると思われる。また、きちんと分別に協力いただいている地域とそうではない地域ではかなり組成も異なると思うので、サンプリングによる結果であることや、きちんと分別している市民に誤解を与えないためにも、情報の出し方を工夫してほしい。（松八重副会長）	<ul style="list-style-type: none"> 今後数値を公表する際は、根拠となっている組成調査の手法や頻度等について説明するとともに、市民が意欲的に分別行動に取り組めるよう、伝え方を工夫してまいりたい。
2	今般の新型コロナウイルス感染防止対策がごみ処理に与える影響等を踏まえた上での目標数値もあり得るかと思う。（橋本委員）	<ul style="list-style-type: none"> 現時点で新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた目標設定を行うことは難しいが、今後の経済活動や日常生活の変化に伴うごみ量やごみ質を捉え、中間見直し等、適切に時機を見定め対応してまいりたい。
3	新型コロナウイルス感染症の影響による目標値の設定は予測が困難と思われることから、生活様式の急変等でごみ量がどのように変動しているかの検証は次期計画の策定に活かしていければ良いかと思う。（久田会長）	

2 基本方針と施策について

No.	ご意見の概要	対応等
4	最近の新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえたかたちで、「施策 7 災害や感染症等に備えた自己完結型処理体制の構築」と掲げていると思うが、災害廃棄物では広域処理の観点も必要であり、災害廃棄物処理と感染症対策を一括りに自己完結型処理体制としてしまうのは齟齬があるのではないか。（齋藤優子委員）	<p>災害廃棄物処理と感染症拡大防止に伴う処理体制の違いが明確になるよう、</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策 7 <u>災害や感染症蔓延など様々な危機に対するしなやかな強さの確保</u>に修正。（本編 P26、27、38） 7-2 広域的な<u>災害廃棄物処理体制の構築</u>に修正。（本編 P27、P38）
5	自己完結型と書くと閉鎖的なイメージを持たれてしまうのではないかと懸念する。一般廃棄物の処理は、大規模災害でも感染症対策でも市	<p>市域内処理の強靱化を図ることを示すよう、</p> <ul style="list-style-type: none"> 7-3 感染症の蔓延時における<u>自立的な処</u>

	<p>域内処理が前提と考えられている一方、東日本大震災の際には膨大な廃棄物を広域的な応援を受けて処理したことや、昨年の水害では他市町村のごみを受け入れた経験が事実としてある。</p> <p>自立した処理体制を保たなければならない要素と、広域的な処理の必要性が読み取れ、機に応じて柔軟な体制で取り組む表現にしてもらえると齟齬がなくなるのではないかと思う。(久田会長)</p>	<p>理体制の構築に修正。(本編 P27、P38)</p>
6	<p>自己完結型の処理体制の話があったが、新型コロナウイルス感染症の影響で一つの収集業者が機能しなくなっても、安定した収集体制を確保するために、仙台市の指導のもと、委託業者や許可業者の相互的な収集システムを構築する必要があると思う。(齋藤孝三委員)</p>	<p>・ 7-3の説明文に記載。(本編 P38)</p>
7	<p>「国内外の動向」の箇所に記載のあるSDGs等が、次期計画の取り組むべき課題にどのようにつながっているのかが見て分かるような中間案であることを期待する。(橋本委員)</p>	<p>・ 第2章-第1節-3廃棄物処理に関する動向と今後の課題に記載。(本編 P21、P22)</p>
8	<p>排出されるごみを減らす取り組みも大事な取り組みであるが、ごみとなるような製品を作らないこと、使わないこと、買わないことなど、生活者として考えていかなければならないという視点も必要ではないか。(橋本委員)</p>	<p>・ 基本方針1の説明文に「<u>不要なものは買わない・貰わない、ごみになるものを断る考え方を含めた</u>」を追記。(本編 P28)</p>
9	<p>新型コロナウイルス感染防止対策の影響で、自社で回収した1団体当たりの集団資源回収の回収量が前年度平均で1,453kgに対し、今回は990kgとなっている。その資源物がどこに流れているのか分からない状況である。(齋藤孝三委員)</p>	<p>・ 2-1の実施・検討すべき取り組みに記載。「民間事業者と連携した回収拠点の提供」「集団資源回収を活用した分別・リサイクルの推進」(本編 P30)</p>
10	<p>最近スーパー等でポイント還元型の回収を行っている店舗も多くなってきているので、そちらの利用促進も進めていくと良いのではないか。(齋藤孝三委員)</p>	
11	<p>集団資源回収では、古紙の買取価格が安価になってきており、活動資金等の減少で担い手不足であるという話も聞こえてくる。このような状況で、いかにモチベーションを上げていくかも考えなくてはならないと思う。(庄司委員)</p>	<p>・ 4-2の実施・検討すべき取り組みに記載。「<u>地域コミュニティを活用した集団資源回収の促進</u>」に修正。(本編 P34)</p>

12	<p>食品ロス削減も大事な取り組みだと思っているが、食品廃棄物のガス化や堆肥化の推進も必要な取り組みである。(庄司委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6-4の実施・検討すべき取り組みに記載。「バイオガス化施設等導入可能性調査・検討」(本編 P37)
13	<p>本計画の理念的な部分は明確にしておきたいと思っており、環境がクリーンになり、資源循環が成され、最後はそこに住んでいる私たちが幸せになっているといった目標設定であると読み取れるが、仙台に住んでいることが誇りに思えるといったニュアンスの言葉が入っていると良いと思ったが如何か。(久田会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 基本的な考え方と方向性の(1)に「誰もが心豊かに暮らすことができる未来に向けて、」を追記。(本編 P23) 同(3) 本計画の基本的な考え方の説明文に「住みやすさを感じることができるまちを目指して、」を追記。(本編 P23)
14	<p>「施策4 社会環境の変化への対応」のところでは、元々これから先の10年を見据えた長期的な計画として策定しているため、直近の新型コロナウイルス感染防止対策であるとか、新しい生活様式のような言葉を盛り込むのは難しいかと思うが、少子高齢化への対応であるとか、世帯構成の変化によって生活スタイルが変わってきており、宅配利用や中食の増加によるプラスチック容器の増加や、通信販売等で段ボールやプラスチックの緩衝材が多く排出されるなど、社会変動として捉えておくべき点がある。(松八重副会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施策4の説明に「また、本市では単身世帯の割合が増加しており、中食によるプラスチック製容器包装の排出増が見込まれるほか、新型コロナウイルスの感染拡大等に伴う生活様式の変化等により、ごみの排出についても様々な影響が及ぶことも考えられます。」を追記。(本編 P34) 4-1の説明に「新型コロナウイルス感染拡大等に伴う生活様式の変化を的確に捉えたうえで必要な啓発を行うなど、社会状況の変化に応じた取り組みを進めます。」を追記。(本編 P34)
15	<p>人の移動を控えるため、単身赴任を減らし在宅勤務に変える企業もあるなど、自宅がスモールオフィス化することも想定され、そこで発生する廃棄物の処理の問題など、新型コロナウイルス感染症が生活様式の変化を加速したことは間違いなく、その点を考慮していくことは必要ではないか。(松八重副会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4-1の実施・検討すべき取り組みに「生活様式の変化を踏まえたごみ減量・リサイクル推進事業の実施・検討」に追記。(本編 P34)
16	<p>新型コロナウイルス感染症、少子高齢化、単身世帯の増加も生活様式の変化と言える。括り方の工夫はあると思うが、施策4に盛り込んでいくことが望ましいと思う。(久田会長)</p>	
17	<p>社会が変化している渦中にあるからこそ、市民の行動変化が起こりやすいと思う。そういったことが、施策3の1にある情報発信の充実なのか、社会環境の変化を高齢化や単身世帯の増加という大きな世代の変化だけではなく、数年、1年2年単位の中の様々な社会の変化のとき、一人ひと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3-1の説明文に「特に市民や事業者の行動変容を効果的に促すため、専門家、ボランティア、地域団体やNPO団体等と連携しながら時機を逸しない情報発信に努めます。」を記載。(本編 P32)

	りの気持ちとごみと行動はつながっていると思っているので、もう少しきめ細やかな社会で何かが起こっているときに情報を発信する等の施策や取り組みについての記載があっても良い。(遠藤委員)	
18	施策3のところ「きめ細やかな情報発信と排出ルールの徹底」とあるが、「きめの細かさ」に加え「迅速な」というようなエッセンスを入れると良いのではないかと。(久田会長)	
19	自分の行動が数値目標のどこにつながっていくのかということ、各施策がどこかの目標値を達成するため貢献するのかがはっきりと分かる見せ方が必要であると感じた。(多田委員)	<ul style="list-style-type: none"> ごみ総量の目標達成に向けては、ごみの発生抑制について家庭や事業所における実践例を記載。(概要版 P7 参照)
20	生ごみがカラスによって散らかされ、飛散している現状があり、そういった街の景観を損なうことのないような対策も計画には位置付けていく必要がある。(菅原委員)	<ul style="list-style-type: none"> 5-2の実施・検討すべき取り組みに記載。「家庭ごみ集積所排出実態調査」(本編 P35) 「家庭ごみ集積所周辺清掃用袋・<u>飛散防止ネットの配布</u>」を追記。(本編 P35)
21	町内会に入らず、ごみ集積所を利用するといった方が増加していることも問題としてあげられる。地域コミュニティの持続や地域で抱える問題について、どのように行政が関わっていくのかについて見解があれば教えてほしい。(庄司委員)	<ul style="list-style-type: none"> 施策4を再検討し、「4-2 <u>地域と連携した課題解決に向けた効果的な仕組みづくり</u>」に修正。(本編 P34)